

# 高等学校 国語科

## 1 改訂の趣旨及び要点

### 改訂の基本的な考え方

- ・文章の内容や表現の仕方を評価し目的に応じて適切に活用すること、古典に対する学習意欲が低いことなどに課題がある。
- ・教材のみを教えるのではなく、単元を構想する際には、指導のねらいを明確にし、主体的な言語活動が計画的に行われることが求められている。

### 目標の改善

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次の通り育成することを旨とする。

#### 知識・技能の習得

生涯にわたる社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。

#### 思考力・判断力・表現力等の育成

生涯にわたる社会生活における他者との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を伸ばす。

#### 学びに向かう力・人間性等の涵養

言葉のもつ価値への認識を深めるとともに、言語感覚を磨き、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、生涯にわたり国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

### 学習内容の改善・充実

〔知識及び技能〕と〔思考力、判断力、表現力等〕の各指導事項について、育成をめざす資質・能力が明確になるよう内容を改善しています。

#### 1 語彙指導の改善・充実

「語彙は、全ての教科等における学習の基盤となる重要な要素である。」このことを踏まえ、語句への理解を深める指導事項を系統化して示しています。

#### 2 情報の扱い方に関する指導の改善・充実

「情報の扱い方に関する事項」を新設し、「情報と情報との関係」と「情報の整理」の2つの系統に整理して示しています。

#### 3 学習過程の明確化、「考えの形成」の重視、探究的な学びの重視

〔思考力、判断力、表現力等〕の各領域において、学習過程を明確に示し、指導事項を位置付けています。また、全ての領域において、「考えの形成」に関する指導事項を位置付けています。さらに全ての選択科目に「考えの形成」のうち、探究的な学びの要素を含む指導事項を位置付けています。

#### 4 我が国の言語文化に関する指導の改善・充実

「伝統的な言語文化」、「言葉の由来や変化」、「読書」に関する指導事項を「我が国の言語文化に関する事項」として整理して示しています。

#### 5 「話すこと・聞くこと」「書くこと」に関する指導の充実・改善

共通必修教科目の「話すこと・聞くこと」「書くこと」の授業時数を増加しています。また、「古典探究」を除く科目において、「書くこと」の領域を設け、論理的、文学的、実用的な文章を書く資質・能力の充実を図っています。

### 学習の系統性の重視

各指導事項と言語活動例のそれぞれにおいて、重点を置くべき指導事項を明確化し、その系統化を図っています。

### 授業改善のための言語活動の創意工夫

各学校の創意工夫による授業改善が行われるようにするため、言語活動例が種類ごとにまとめて示されています。

### 各領域の授業時数、取り上げる教材の明確化

各領域の指導事項に示した資質・能力の確実な育成に向け、「話すこと・聞くこと」「書くこと」の授業時数を複数の領域をもつ全科目において設定。また科目の性格に応じて、主として「読むこと」の指導で取り上げる教材が、明確に設定されています。

### 読書指導の改善・充実

〔知識及び技能〕に「読書」に関する指導事項が位置付けられ、「読むこと」の領域では、学校図書館などを利用して様々な本などから情報を得て活用する言語活動例が示されています。

## 内容の取扱い等

・「論理国語」、「文学国語」、「国語表現」及び「古典探究」の各科目については、原則として「現代の国語」及び「言語文化」を履修した後に履修させること。

## 2 高等学校国語科における授業づくりのポイント

### ポイント①：国語科における主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善

	引き出したい生徒の姿と指導の工夫
<b>主体的な学び</b>	子ども自身が目的や必要性を意識して取り組める学習となるよう、特に、学習を振り返る際、子ども自身が自らの学びや変容から学びを自覚でき、説明したり評価したりすることができるようになる。 【単元や時間における見通しと振り返りの位置づけ、自分事として捉え考えたい学習課題の設定】など
<b>対話的な学び</b>	様々な他者との議論、協働的作業や、本を通して作者の考えに触れ自分の考えに生かすことなどを通して、互いの知見や考えを広げたり、深めたり、高めたりする言語活動を行う学習場面を計画的に設けることが考えられる。 【他者や自己との対話を深めさせる学習活動の設定、思考の深まりに応じた学習形態の設定】など
<b>深い学び</b>	「言葉による見方・考え方」を働かせ、言葉で理解したり表現したりしながら自分の思いや考えを広げ深める学習活動を設けることなどが考えられる。 【言葉同士を比べたり使われ方を吟味したりするなど言葉の意味、働き、使い方などへの着目をさせる】など

### ポイント②：単元に設定する学習活動としての言語活動の工夫

単元や授業を構想する際には、学習指導要領の指導事項を踏まえて、単元や本時のねらいを設定しましょう。また、言語活動例と生徒の学習状況や興味などを踏まえて、効果的な言語活動を単元の中に位置付けましょう。言語活動をめざす資質・能力と明確に関係付けながら授業改善につなげていくことが重要です。

#### 【例】

<b>めざす資質・能力</b>	人物の心情を表現に即して読み深めることができる。
<b>学習活動</b>	「羅生門」を読み、「話し合い」を行う。

=

「読む」の指導

※「話す・聞くこと」の指導ではありません。

**育成をめざす資質・能力と言語活動を同一視しないことが重要です。**

### ポイント③：学習過程を踏まえた単元構想

生徒が学習の見通しをもったり学習したことを振り返ったりすることを効果的に行うため、〔思考力・判断力・表現力等〕の各領域において学習過程が再整理されました。活動を通じてどのような資質・能力を育成するのかを明確にすることが重要です。学習過程の全体像を理解して、1 単位時間の授業や各単元の指導を行います。

A 話す・聞くこと	B 書くこと	C 読むこと
<ul style="list-style-type: none"> <li>・話題の設定、情報の収集、内容の検討</li> <li>・構成の検討、考えの形成</li> <li>・表現、共有 <span style="float: right;">【話すこと】</span></li> <li>・構造と内容の把握、精査・解釈、考えの形成、共有 <span style="float: right;">【聞くこと】</span></li> <li>・話し合いの進め方の検討、考えの形成、共有 <span style="float: right;">【話し合うこと】</span></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・題材の設定、情報の収集、内容の検討</li> <li>・構成の検討</li> <li>・考えの形成、記述</li> <li>・推敲</li> <li>・共有</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・構造と内容の把握</li> <li>・精査・解釈</li> <li>・考えの形成、共有</li> </ul>

### 3 高等学校国語科実践事例

#### 単元(題材)の流れ

時間	主な学習内容・学習活動	学習過程
第1次 (1～2時間)	○単元の目標を確認し、学習の見直しをもつ。 ○相手によりよく考えを伝える表現や構成について理解する。 ・テキスト本文を通読し、主張と根拠など、文章全体の論理構造を把握する。	情報の 収集  内容の 検討
	○書く内容を構成する。 ・筆者の主張に当てはまる事象が自分の周りにはないかを考える。→具体的な事例の設定 ・書く相手を設定した上で、自分の考えや事柄が伝わるよう情報や内容を整理し、文章構成シートにまとめる。	
第2次 (3時間)	○文章を書くにあたっての留意事項を確認する。 ・構成シートを見せ合い、本文の文章構成を振り返りながら、書く際の留意点について話し合う。 例：主張と根拠の妥当性や情報の信頼性など ・書くにあたっての情報や根拠についての信頼性や妥当性についても調べる。	構成の 検討
第3次 (4～5時間) 本時	○文章を作成する。 ・既習事項を活用して、読みでの思考や書く目的を意識しながら、身の周りにある「もの」から「こと」への思考の転換が必要だと感じるものについて原稿用紙に自分の主張を書く。 ○相互評価、振り返り ・互いの文章を読み合い、協議において気付いた自分の学びや気づきを振り返る。	記述・ 推敲・ 共有

#### 深い学びを実現するためのポイント



#### 「知識及び技能」と「思考力、判断力、表現力等」を関連づけた単元展開

実践事例では、「相手に伝わる文章を書く」という目標に向かって、「**相手＝クラスメイト**」に**自分の考えが伝わるかどうか**、書く目的を明確にした上で、テキストから学んだ文章構成や表現を活用しています。「**主張と論拠**など情報と情報との関係について理解」し、そこから「情報の分量や重要度」を意識して文章の構成や展開を工夫し、文章を書くことを意識させます。また書くための情報や根拠の信頼性や妥当性についても考えさせることで、「他者とのコミュニケーションの側面」だけではなく「**情報を編集し操作する力**」にも働きかけることも可能となります。テキストの読解と既習の知識を具体的な場面に置き直して活用することで、「**思考力・判断力・表現力等**」に働きかける学習となります。

#### 育成すべき資質・能力を明確にした言語活動の工夫

育成すべき言語能力を踏まえ、「**認識から思考へ**」という過程の中で**働く理解するための力**や「**思考から表現へ**」という過程の中で**働く表現するための力を、どのようなサイクルで働かせるのかを明確にすることが重要**です。実践事例は、単元全体で「**認識・思考・表現**」という一連の学習過程を繰り返しています。相手を意識した文章を書くために、第1次で学んだ本文の文章構成などを振り返り、考え、情報収集をし、構成シートの活用、共有等を行うことで、よりよい文章を書くために必要な要素について主体的かつ対話的に理解を深めることができます。またこの単元で学んだこのような要素は、要約やレポート作成にも活用していくことができます。

#### 言葉に向き合いながら学びを実感する

生徒が自身の学びや変容を自覚させる際、**言葉による見方・考え方を働かせることが重要**です。本時では、自分の思い等をどのように言葉で理解し、どのように言葉で表現するかという見方・考え方を働かせ、文章を書いたり、相互評価を行います。また、クラスメイトの作品を読んだり、対話したりする中で生徒が言葉と向き合う時間を設定することで、他の文章の作者の意図や考えを読み取る力の育成にもつながります。

【言葉による見方・考え方を働かせる】  
生徒が言葉に着目して、言葉に対して自覚的になること



## 本時の指導計画

- ◆科目・学年 国語総合・1年
- ◆単元名(題材名) 相手を意識した文章を書く【評論】「もの」の科学から「こと」の科学へ」
- ◆学習指導要領(平成30年告示)との関連 「現代の国語」内容〔知識及び技能〕(1)オ  
〔思考力・判断力・表現力等〕B 書くこと(1)イ
- ◆単元(題材)の目標
  - (1)相手や目的に応じて文章の構成や表現を工夫して書こうとしている。(関心・意欲・態度)
  - (2)相手や目的に応じて文章の構成や表現を工夫して書くことができる。(書く能力)
  - (3)文章の組み立てや接続の仕方について理解する。(知識・理解)
- ◆本時の目標
  - ・読みでの理解が得られるように、主張と論拠など、文章の構成や展開を工夫して書こうとしている。[関]
  - ・読みでの理解が得られるように、主張と論拠など、文章の構成や展開を工夫して書くことができる。[書]
- ◆主な学習の流れ (4、5時間目/全5時間)

学習活動	指導上の留意事項
<b>1. 本時の学習内容を確認する。</b>	
<b>相手に自分の考えや事柄がよりよく伝わる文章とはどのようなものか。</b>	
<b>2. 自分が書きたい内容について整理する。</b> ○前時で作成した文章構成シートを確認し、自分の書く内容を整理する。	・前時に話し合った文章を書く際の留意点について確認させる。
<b>3. 原稿用紙に自分の考えを書く。個人</b> ○文章構成シートを活用し、文章を書く。	・本文で学んだ文章の構成や展開について板書する。 例：主張と根拠、具体的な事例や正確なデータ、参考文献の出典などについて示すことができるかを確認させる。
<b>4. 生徒作品を相互に評価する。ペア</b> ○読む相手を意識できているのか。表現や構成は適切かなどについて相互評価させる。その際、内容・表現(構成)の観点で評価(とても良い・良い・普通)を行う。	・相互評価の際に、よいと思った文章には、どのような特徴があったのかを考えさせる。
<b>5. ポイントを抽出し、発表する。グループ</b> ○互いに読み合った中で、よいと思った箇所(ポイント)を模造紙に付箋に書き出し、その理由についても説明させる。	・グループ内の意見がある程度、出された後、KJ法で分類、整理させる。
<b>6. 振り返りシートを作成する。個人</b> ○今回の単元で学んだことや気づいたことをまとめる。	・各グループで発表された内容を板書・提示し、振り返りがしやすいよう支援する。